第6巻　第1号
発行日：平成27年3月8日

# 山寺通信　鶏谷山花栄寺だより

今号の記事：


- 日泰寺にて思ったこと
- 好信和尚様祥月命日に永平寺参拝
- 春季彼岸会・涅槃会のご案内
- 春の気配近づく


## 日泰寺にて思ったこと

名古屋市に覚王山日泰寺という超宗派のお寺があります。タイ王室から贈られた釈尊の御真骨を祀るため、1904年（明治34）に建てられたお寺です。現在は日本国内の19仏教宗派の管長が3年交代で住職を務めています。

1898年、英領インドのウッタルプラデシュ州ピプラーワーという地で、古い骨壺が発見されました。表面には古代の文字があり、解読すると「この世尊なる佛陀の舎利瓶は釈迦族が兄弟姉妹妻子とともに信の心をもって安置したてまつるものである 」と書かれていました。それまで釈尊の存在はキリスト教の救世主イエスと同様に伝説のものと考えられていたのですが、舎利容器の発見によって実在が確認されたのでした。容器はインド政庁が管理し、中の遺骨は仏教と縁の深いシャム（現在のタイ）王室に引き取られました。そこからセイロン（現在のスリランカ）、ビルマ（同ミャンマー）、日本に分骨されたのです。

さて昨年11月、日泰寺参拝の機会を得ました。青年会の研修旅行で仏舎利奉安塔前で法要を務めてまいったのです。ガンダーラ様式を模した高さ15Mほどの奉安塔は、礼拝堂の奥に厳かに佇んでいました。普段は鍵がかけられ、間近で見ることはできないそうです。あたりは木立に囲まれ、激しい交通量の通り付近なのに、しんと静まり返っていました。まるではるか昔のインドにおり、目の前に釈迦牟尼仏がいらっしゃるかのような雰囲気で、大変感銘を受けました。感激をしながら礼拝し、般若心経を読経してまいりました。

個人的に、もう一つ心揺さぶられたことがあります。それは、日本が本当に信仰の国なのだなという安ど感でした。自分自身は宗教的に厳格な家庭に

日泰寺の仏舎利奉安塔

育ったわけでもなく、仏教者として教育されたわけでもありません。しかし縁あって僧侶となり、日本人の先達が残してくださった幾つもの仏教の宝に触れ、考えました。そこには2500年前に説法遊行されたお釈迦様のお骨を祀る塔もあり、あるいはその後1000年の時を経て日本にもたらされた経典もあり、あるいは京都奈良に代表される寺院群もある。日本人の多くは「宗教」という言葉を無縁のものと感じるかもしれないけれど、むしろ宗教のほうが私たち日本人を決して離さず、疎遠にはしないと確信しました。天を仰ぎ手を合わせ祈る気持ちを整えるならば、いつだって神々も諸仏もご先祖様方も教えを垂れてくださるのだ、と改めて実感したのでした。

国内外に凄惨な事件が相次ぐ今だからこそ、この日本人としての信仰を守ってまいりたいものです。

## 好信和尚様祥月命日に永平寺参拝

昭和58年に亡くなった花栄寺25世随応好信大和尚様が33年の年忌を迎えます。一昨年の晋山結制の折、本寺普広寺様を拝請し、繰り上げ年忌法要をさせていただきました。このたび、正当の年ということもあり、命日6月16日（火）～17日（水）の日程で住職と東堂が大本山永平寺に拝登し、読経していただこうと思います。また、修行僧の朝の食事を御供養したいと考えており、修行僧の朝食時に僧堂内を合掌しながら巡り歩く行持も予定しております。この機会に同行を希望される方、また分骨の納骨を検討している方は、4月末日までにお寺にご連絡ください。（0257-29-2266）

## 春季彼岸会・涅槃会のご案内

右記日程により法要をとり行います。「仏教のお話」は、仏教が何を伝えようとしているのかをお話しします。法要後、おときと涅槃団子をご用意いたします。涅槃団子はお釈迦様の舎利とも臨終にお供えしたものとも云われておりますが、花栄寺では昔より魔除け、蛇除けになるお守りとして信じられてきました。

◆ 期日：　平成27年3月21日（土）

◆ 時間：　午前10時～「仏教のお話」

同　11時～法要

法要終了後おとき

## 春の気配近づく

昨年12月に大雪で始まった冬も終わりが近くなってきました。例年より1度ほど気温が高いような体感でした。底冷えする日も少なく、3月に入って雪どけが早まっている気がします。

大人にとって試練の冬も、子どもには楽しみの季節。2月22日（日）、「運動あそび塾しらさん家（ち）」の子ども達13名とスタッフ5名の皆さんが来山しました。裏山を越えたところにある雪原でラーメンを煮たり、斜面を使ってタイヤチューブのそり遊びをしたり、歓声が響き渡った一日でした。